

令和6年12月定例会議 一般質問

1番議員 清水 友紀

子どもも大人も、公共施設を活発に利用するための施策を

地域の人々の交流拠点となる公共施設は、近年の物価高騰や少子高齢化などの厳しい社会経済情勢を踏まえると、補修・改修工事などを計画的に実施しながら大事に使い続けることが重要である。

一方、町長は駅前に図書館を含む複合施設を新設し、家でも職場・学校でもなくつろぎの場となる第三の居場所「サードプレイス」を創設するという構想を掲げており、庁内では検討ワーキンググループも設置されているということである。

新たな施設を整備する前に、似通った目的を持ちながら、有効活用されていない既存の施設がないかどうか、それらの管理計画等を含めた検証と見直しが必要と考える。

そこで、以下の項目について、町の見解を伺う。

1. 庁舎が、当初の理念どおり、住民が気軽に訪れる多様な居場所となるための工夫は。
2. 南部コミュニティセンター（どんぐり会館）は、今後、子ども達が自由に集う児童館のような場となり得るか。
3. 地域の安全な遊び場として、学校の校庭や体育館を開放、整備する考えは。
4. 地域集会施設が、行事以外にいつでも集える場として住民に認知されるよう、町ができる支援策は。